【補足資料】和光新校準備委員会（第１回）　議事詳細

１　日　時　　令和５年２月７日（火）　　午前１０時開始
　　午前１１時３０分終了

２　会　場　　県立和光国際高等学校大会議室

３　出席委員　　臼倉委員長、鈴木副委員長、柴﨑副委員長、渡辺委員、佐藤（真）委員、羽田委員、冨岡委員、柴田委員、山口委員、布川委員、重田委員、佐藤（直）委員

４　事務局　　魅力ある高校づくり課　栗藤、中島、坂本、髙辻、橋本

５　協議等　　「和光新校基本計画検討（案）」について

臼倉委員長　次第３、協議に移りたいと思います。まず、事務局から本委員会についての説明をお願いします。

事務局　（新校準備委員会について、今後のスケジュールについて説明）

臼倉委員長　ただ今の説明につきまして、何か御質問等ありますでしょうか。よろしいですか。それでは次に、既に令和４年 10 月に策定、公表いたしました魅力ある県立高校づくり第２期実施方策について、事務局から説明をお願いします。

事務局　（魅力ある県立高校づくり第２期実施方策について説明）

臼倉委員長　ただ今の説明について、何か御質問等ありますでしょうか。特にないようですので、続いて資料３、新校基本計画検討委員会で検討されました、和光新校基本計画検討（案）について、御協議をお願いしたいと思います。ボリュームがありますので、途中切りながら進行してまいりたいと思います。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局　（和光新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について説明）

臼倉委員長　１ページ目と２ページ目の前半まで事務局から説明がありましたが、御質問、御意見等ございましたら、よろしくお願いします。

佐藤（直）委員　国際に関する学科のイメージを共有してもらいたいので、国際に関する学科のイメージと、中心的役割を担うというところはどういったことを意味するのかについて御説明いただきたいと思います。

臼倉委員長　事務局、お願いします。

事務局　埼玉県内には、現在、外国語科を有する専門高校がございます。本日の会場である和光国際高校もその外国語科を設置した学校ですが、外国語科では、英語やそれ以外の外国語など、語学を学ぶことを中心に世界を広く学んでいくというもの

でございます。全国的に申し上げますと、埼玉県とあとは数校が全国にあるだけで、ほとんどの地域では、国際に関する学科になっていることが多くなっています。私たちとしては、和光国際高校に限りませんが、他の外国語科を設置している学校での学びを見た場合、まさに、国際に関する学科で学ぶようなことも含めてしっかりとした学びが進んでいるという認識がございます。ですので、新校として新たに二つの学校を統合する中で、またグローバルな人材をという流れでは、今、既に取り組まれていることを更に発展させるという意味で、国際に関する学科ですね、正式な学科名はこれからですけれども、そうした形で進めていきたいと考えております。つまり、外国語科の学びを、外国語科の先生、その世界だけで終えずに、教科横断型で、他の教科目の授業や先生方を巻き込んで、広い視野を持って自国の伝統や文化についての理解を深めていくという、グローバル人材を育成したいと考えているところでございます。これまで外国語科で実践されてきた、語学力の育成はもちろん大切なことでありますし、それを発展させる上では、地球規模の諸課題などについても深く掘り下げる必要があります。既にそういった取組は行われていますので、学科の名前をそういう形にしていきたいと考えたところです。中心的な役割についてです。同時に、国際に関する学科を三つ立ち上げるわけですが、今お話をさせていただいたとおり、外国語科としての実績がある和光国際高校の取組を、いろいろなノウハウを、岩槻新校や秩父・皆野新校にも波及させていきたいと考えています。最近は、インターネット等を使って、ネットワークで空間的な距離を越えてつながることもできますので、そうしたことも期待して、国際に関する学科の中心的なというのを、要するにリードするという意味合いで捉えております。

臼倉委員長　他に御質問、御意見等はございますでしょうか。羽田委員、お願いします。

羽田委員　両校とも、基本理念にグローバルという言葉を使っていて、グローバルリーダー、グローバル人材というものを掲げていますが、これまでの御説明の中で、グローバルリーダー、グローバル人材というものが、具体的にどういった人材を育成してくのかというのが、もう少し具体になると良いのかなと思います。語学力については、ＡＩなども進歩していますから、英語が話せるとか聞けるとか、これはもう近い将来、スマホであるとかいろいろなツールが出てくるので、話せること自体はそれほど、どうなんだという話になってくると思います。語学力というよりも、相手のことを思って豊かな社会が一緒に築けているかという、どちらかと言うと、共創という言葉が最近よく使われていると思いますが、ウクライナの状況を見てもそうですが、一国の問題ではなくグローバル世界全体が抱えている課題であるわけで、そういうものを、新しい学科の中で人材を育てていくのかなと個人的には理解しています。そういった観点で考えていくと、２ページ目にある和光高校案の基本姿勢のところで、協働による探究的な学びというのがすごく大事なポイントではないかと思っていて、その点で言うと、和光国際高校案は割と現実的で、いわゆる知識、技能のところに重点が置かれている印象を受けました。ですので、もう少し高い次元で、目指す学校、育てたい生徒像を具体的にお示ししてはどうかなと思いま

した。

臼倉委員長　ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

事務局　ありがとうございます。まさに大事なところなんだと思いますし、二つの学校の案をこれから一つにまとめて具体的な文言にしていくときに、今の考え方をしっかりと入れ込んでいきたいと思います。事務局としては、大学などに最近置かれている、国際教養学部だとか、いわゆるグローバル関係の学部・学科での取組と方向性は重なってくると思いますし、それを高校の段階で専門学科として、どういう形で設定していくのかというところを、しっかりと打ち出していきたいと考えております。

臼倉委員長　基本理念に当たるところですので、少し高い次元でというお話がありましたので、その辺り案を作るときに、事務局で整理していただければと思います。冒頭にありました、グローバルリーダーやグローバル人材のイメージというのは、何か既にあるのでしょうか。

事務局　先ほど、羽田委員からもお話をいただきましたが、ただ単に外国語が話せるというだけではなく、外国の様子、あるいは人にはいろいろな多様性があるわけですから、人類社会全体を俯瞰できるような、そうした国際に関する教養をしっかりと備えた人材を育成したいと考えています。なんとなくグローバルというと海外に出ていくイメージが強いですけれども、海外に出るだけではなくて、地域に根付いて、そうした感性、考え方を持った人が活躍できる、そういった人材像を考えているところでございます。

臼倉委員長　その他、何かございますでしょうか。柴田委員、お願いします。

柴田委員　グローバル人材の育成に関して、新しく取り組まなければならないことがあると思うのですが、例えば、地球規模で活動するためには何をしたら良いかとかそういうことでフィールドワークに参加していくなどということが検討できるかと思います。新しく教育課程として、今名前が出てこないですが、大学の授業をベースとして、卒業認定を受ける、いろいろな修得ですとか、あと、高校生の国連大会とかもあると思うのですが、そういうものに参加するとか、そういうところまで具体的に考えていらっしゃるのか、それとも、今ある高校教育の課程の中で、こういったグローバルな観点で組合せを考えるということなのかということが少し分かり兼ねます。私の質問が、理解に苦しむところがあると思いますが、一体、グローバル人材を育成するということは何なのかという根底を教えていただきたいと思います。

事務局　各学校が学校である所以というのは、文部科学省が学習指導要領を定めていて、その中で教育課程を組まなければいけないわけですけれども、もちろん教育課程の中に組み込まれている授業だけでなく、先ほどフィールドワークなどとおっしゃっていただきましたが、そうした各学校が独自で取り組むような、教育課程の周辺に位置する学びというのも当然あると思います。ですので、具体のことはこれから詰めていくことになると思いますし、また、現在取り組んでいらっしゃる和光国際高校の学びのスタイルもあると思いますので、そうしたものを取り入れながら、

教育課程の中身をどう仕上げていくのか。もしかしたら柴田委員がおっしゃるような特別な科目を作っていくということもあるかもしれません。学校で設定する科目というのも、検討することが可能なので、例えばそういったものがあります。他にも、海外の学校との交流を今もやっているわけですが、そういったものを、グローバルという視点に寄せて、もう少し、例えば学校全体でもっと拡大していけないかなど、いろいろなやり方があると思うので、教育課程の内側と教育課程の外側と、様々な学びを検討できたら良いと思っております。

柴田委員　これから考えていくということなんでしょうか、分かりました。

事務局　どうしてもやれるところと難しいところがあるので、その辺は峻別をしながら、検討過程において学校とも相談しながらと考えております。

臼倉委員長　その他、いかがでしょうか。事務局からグローバルの視点から地域との連携をという話がありましたが、新校ができますと、和光市を代表する唯一の県立高校という形になります。地域との連携、協働の観点から、御意見等があればお伺いしたいと思います。渡辺委員、お願いします。

渡辺委員　うまくお話できるか不安なところがありますが、今回、この第２期の実施方策（案）に対する県民コメントを行ったと思いますが、それを拝見したところ、今回の和光高校と和光国際高校の統合に関しては、30 数件の意見があったと認識しております。その多くが、両校の校風の違いを心配する意見だったかと認識しています。そういった中で、今回お示しいただいている基本理念、目指す学校というところで、国際社会ですとかグローバルリーダーといったところの文言が使用されていると思いますが、和光高校の現在の目指す学校像、ホームページに載っていたものを見ますと、「創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる」といった内容が示されておりました。そういった考え方も、新校の目指す学校の中に包含されることが望ましいのかなと思った次第です。

臼倉委員長　ありがとうございました。事務局、いかがでしょうか。

事務局　県民コメントにはたくさんの御意見をお寄せいただいております。一つの新校をつくっていくということに関しては、それぞれの良いところをうまく継承できるようにしたいと思っております。基本方針は、グローバルな学校、そういった学科を併置する高校であることがうたわれているわけですが、現在の和光国際高校の取組に、是非、和光高校の良いところを取り入れていけたらと考えているところです。

羽田委員　柴田委員のお話にもありましたが、グローバルということで考えたときに、高校生に対して何を対象として学習させていくかということも結構大事な視点かと思っておりまして、どうしても一昔前ですと、英語が話せることにかなり価値があって、当然、教科書にも欧米の文化であるとか考え方とかそういうのが盛りだくさんあるわけですけれども、ただ、現代社会ではもう、英語が話せるということ、そういった国々だけでないそれ以外の国々との関わりが大きくなってきていると思います。対象として、例えばアジアの地域の国々のことですとか、和光市で考えると、海外からこちらに住まわれている外国籍の方もいらっしゃいますし、いろい

ろ職場で働いている外国人の方もいらっしゃる、そういった現実を見たときに、先ほど事務局から地域に根ざして考えていくということがありましたが、地域というか自分の足元、一番身近なところでグローバルという視点で物事を捉えていくことが非常に大切ではないかと思っています。余り欧米だけではない、地域というのが曖昧ですが、アジアの地域ですとか、和光に関わりのある地域についても学んでいく必要があるのかなと思います。

臼倉委員長　ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。重田委員、お願いします。

重田委員　今の高校生のレベルと言いますか、今の高校生が学校生活、入学してから卒業するまでの間に、どのくらい自分たちが知識というか思いというものを持って卒業していくのかという、３年間しかないわけですよね。その中でいろいろなことを学ぶということですが、例えば卒業するときに、ただ漠然と卒業してしまうのと、将来に向けて目標を持って卒業するのとではだいぶ違うと思います。そのために、いろいろなグローバルの視点ということで語学を学ぶんでしょうけれども、高校生が夢を持って自分の未来をどう生きていくかということが重要だと思っています。そのためには、もちろん授業もそうですが、クラブ活動も非常に重要なものだと思います。授業と部活動、全体で、高校生がどういう思いで次の学校を選べるか、あるいは就職できるか、という方向に向けてどういう取組を、生徒指導を含めてやっていくかということが、重要だと私は思います。私も自分の経験では、高校３年間、漠然としている中で、生徒会長をやっていましたが、そのときに、こういうものをやりたいなというものが学校生活の中で見つかって、次に進んでいったという経験があるんですけれども、３年間は重要な時期なので、どれだけそういった気持ちを生み出せるかということが重要ではないかと思います。だからどうすれば良いかということは難しいのですが、その辺をやっていければ良いかなと思います。

臼倉委員長　ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

事務局　とても大事な視点だと思います。項目で言うとこの後の生徒指導や進路指導といったところもありますので、そういった具体のところを考えていければと思いますが、高校生に夢を持たせるか目標をどう到達させるかというのは、学校現場においては、最もありふれた話ではありますが、最も難しいところでもあって、そこをどんなふうに卒業までに力を付けてその子の人生を開いていくか、大変大きな課題であります。新しい学校でも、そうでない学校でもそうですが、しっかりと、それぞれ一人一人の子供たちに向き合っていきたいと考えております。

臼倉委員長　その他、いかがでしょうか。冨岡委員、お願いします。

冨岡委員　ちょっと分からないのでお聞きしたいのですが、国際に関する学科と普通科の併置校と書いてあるのですが、これはどう違うのですか。その点をお聞きしたいと思います。

臼倉委員長　事務局、お願いします。

事務局　制度的な違いという意味で言うと、普通科の科目を並べて、生徒が選択することも含めてですが、これとこれとこれを学習しなさいという、普通科の学びのメ

ニューみたいなものがあります。割と普通科の場合は、幅広にいろいろなものを本人の興味関心等に合わせて選択していくわけですが、そういう普通科の学びとは別に、国際に関する学科という専門の科目を用意することになります。この専門の科目というのは、例えば農業科であるとか工業科であるとか商業科であるとかと同じような考え方です。それを、３年間の学びの中で一定の単位数以上、25 単位以上を学ばなければならないという制度上のルールがあります。で、国際に関する学科、現在の外国語科もそうですが、専門となっている科目を３年間のうちに一定程度の分量を学ぶことになっています。ですので、より専門的な、例えば語学、第２外国語を勉強できたり、和光国際高校は現在やっていますけれども、そうしたことなどが専門学科の取組ということになります。

臼倉委員長　よろしいでしょうか。この辺りもこの後、細かく設定していくことになるのかと思いますのでよろしくお願いします。第２回の委員会では、事務局の方で案を一つにまとめて提案するという流れになります。次に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局　（和光新校基本計画検討（案）のうち教科指導について説明）

臼倉委員長　教科指導の基本方針と具現化の案になります。何か御意見、御質問等はございますでしょうか。司会の方からで申し訳ないのですが、３ページの具現化のところのまとめ方が両校で異なる形で出されておりまして、最終的にどういう形でまとめていくのか教えていただけますでしょうか。和光国際高校案は非常に細かく、教科ごとに記載されていますが、和光高校案はまとめた形になっています。最終的にまとめていくイメージがあれば御説明いただきたいと思います。

事務局　会の冒頭で御紹介した、参考資料に児玉新校（仮称）基本計画（抜粋）がございますが、その３ページに、６番として教育活動等の基本方針の具現化がございます。その前の２ページに、教育活動等の基本方針もございます。ここに教科指導ということで、イメージとしては、和光国際高校案というより和光高校案のような書きぶりでまとめていく感じになります。その具現化については、３ページの６番の⑴にあるとおり、教科指導としてこのようにまとめていくものというのが、事務局としてのイメージです。恐らく和光国際高校案については、各教科でどのような学びが考えられるかということをお示しいただいたと思うので、割とその先の細かい内容になってくるのかと思います。まずは大きな構えで、参考資料２ページ、３ページのような書きぶりにしてまいりたいと考えております。

臼倉委員長　参考資料に付けていただいた、このような形にまとめていく作業になっていくのかと思います。そういうことも踏まえて、御意見等あればお願いします。羽田委員、お願いします。

羽田委員　お尋ねしたいのですが、先ほどの説明の中で、２ページの遠隔授業の検討というところで、海外の授業を視聴したりとかオンデマンドでつないだりとかというお話がありましたが、これは、一斉にやるイメージなのでしょうか。それとも、それぞれの興味関心とか進路に応じて生徒たちが必要なものを取って単位として認めてもらうといった個別的なものになるのでしょうか。活用するのはすごく良い

と思いますが、その辺りのイメージがもしあればお伺いしたいと思います。

事務局　両方できると思っています。オンデマンドみたいな形でライブラリ化しておいて、視聴がいつでも可能というやり方もあると思いますし、イメージとしてライブという言い方をさせていただいたのは、同時につないでリアルな形でやりとりができると、学習者として三つに散り散りになっている高校生同士が意見交換、ディスカッションをその場でやれたりとか、そういった効果もあるかと思います。これまでは技術的にほぼ無理と思われていたことが可能になってきましたので、内容というのが、具体なものは先ほどお話したようなところだと思いますが、そうしたところから、徐々に広げていけたら良いと考えております。

臼倉委員長　羽田委員、お願いします。

羽田委員　ありがとうございました。同時に教室で視聴するというのもあっても良いですし、あるいはオンデマンド式に個人の興味関心に合わせてという方向も良いと思います。こういう時代ですから、どんどんそういう方向は探っていくべきではないかと思います。少し御紹介しますと、大学でも、もうオンデマンドの授業をどんどん導入しなさいという文科省からの指導もあって、いわゆる講義式の授業、単なる資格取得みたいなものに役立てるような授業については、率先してオンデマンド式で学生が必要なときに必要なことを何回でも視聴したりして、最終的に、テストやレポートで単位を認めているといったことをどんどん進めていますし、パイロット的にやっている大学はかなり進んでいるということもありますので、高等学校でもそういう方向というのをこれから探っていくべきではないかと思います。そうしてくると、学習評価が、一斉に試験を行って試験を受けて評価をするということではなくて、個別最適な学びに資するような評価方法も開発していかなければならないと思います。ＩＣＴを活用しながらいろいろなところとつながっていって、一人一人に合った、進路の話もありましたけれども、自分の目指す進路が実現できるように、必要なものを必要なだけ学んでいくという、そういう流れがあってよろしいのではないかと思います。

臼倉委員長　貴重な御意見ありがとうございます。事務局から何かございますか。よろしいでしょうか。

事務局　はい。

臼倉委員長　本当にコロナを機会にしてと言いますか、非常にこういう分野は進んで、今までできなかったことがどんどんできるようになってきていますので、いろいろとその辺りもしっかり、指導法を研究していきたいと思います。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局　（和光新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について説明）

臼倉委員長　生徒指導の視点で、いかがでしょうか。基本方針と具現化ということでございますが、御意見があればお願いします。重田委員、お願いします。

重田委員　生徒指導と言いますと、私の高校生時代は 50 年も前の話であって、当時とは随分違うとは思いますが、今の高校生は、３年生になるともう成人になるわけ

ですよね。選挙権も得られるという中で、そういう方向に向けた指導と言いますか、社会の中で自分はどういう立場で、例えば選挙権を持って、１票の価値というものを考えてどう行動するのかとか、そういったところが大切なのではないかと思います。我々の頃は、髪の毛が長いだとかいろいろなことがありましたけれども、今はそういう方向で、生徒が３年生になれば成人になるという方向に向けたものが必要なのではないかと思います。

臼倉委員長　ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。

事務局　大変、大切な御指摘だと思います。実際に、民法の改正はいろいろなところに影響が及んでおりますので、大切なところだということで、教育委員会でも、授業の中に主権者教育であるとか、あるいはいろいろな契約の関係で言うと消費者教育であるとか、そうしたものの視点を取り入れるようにということで、いろいろな教科・科目の中に取り入れられたりはしていますが、是非、学校全体としても、地球の上での市民になるという大きな意味合いで、グローバル人材を育成する学校では、そうした指導をしていくことが大切なのかと思います。

臼倉委員長　他にいかがでしょうか。羽田委員、お願いします。

羽田委員　生徒指導に関して、先ほどあった生徒指導提要の改訂ということもありますので、人権感覚を育成するという文言を、どこかも入れた方が良いのではないかと思います。もちろんこれは生徒同士の人権、あるいは生徒にとっての自分と他者の人権、ということもそうですが、教師と生徒に関しても人権があるという考え方も含めて検討いただきたいと思います。

事務局　大事な視点だと考えておりますので、是非、この後の案の中に、盛り込むよう検討していきたいと思います。

臼倉委員長　柴田委員、お願いします。

柴田委員　具現化のところに、地域社会の一員であることを意識させるという項目を入れた方がよろしいかと思いました。国際的な感覚は、ローカルから培われると思いますので、先ほど重田委員からのお話にもありましたが、社会の一員であるということをより具体化させた方が生徒の認識が深まると思います。検討いただければと思います。

事務局　生徒指導のところに盛り込むということもあるでしょうし、もしかしたら基本理念に関わる話かもしれませんので、事務局の方で調整させていただきたいと思います。

臼倉委員長　他、いかがでしょうか。生徒指導の考え方も随分変わってきているところもあると思います。校則であったり、制服の着こなしだったりというところだけではなく、非常に今は、広がりと言うのでしょうか、いろいろな概念が入ってきているところもありますので、丁寧に進めていただきたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、先に進めさせていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局　（和光新校基本計画検討（案）のうち進路指導について説明）

臼倉委員長　進路指導について、御意見を頂戴できればと思います。重田委員、お願いします。

重田委員　進路指導の前段階として、だいたい今の学校の、卒業して進学する割合と就職する割合というのは、どの程度なのでしょうか。

臼倉委員長　事務局からお答えいただけますか。

事務局　手持ちの統計を見させていただければ出せると思いますが、もし、両校の校長先生から、何%という形で把握されているようであれば。よろしいでしょうか。

柴﨑副委員長　和光高校は、大まかに言いますと、就職と進学が半分半分です。半分の生徒は就職をします。進学は更にまた分かれまして、大学と専門学校ということになります。

鈴木副委員長　和光国際高校については、例えば去年は318名中、四年制大学が281名、短期大学が４名、専門学校11名、海外が４名、浪人が15名ですね。ですからほとんどが進学です。

重田委員　それによって、指導方法があると思います。大学に進む、専門学校に進む、という方向の指導と、それから就職と言うと、指導と言いますか就職先を見つけるとか、そういうのも今学校でやっていると思いますが、その辺をいかにやっていくかということが大事なのではないかと思います。

臼倉委員長　その辺り、事務局、いかがでしょうか。

事務局　記載の部分が、そういったところの書きぶりが少し不足しているところがあるかもしれませんので、何度も申し上げているとおり、この後一つの案にまとめていくときには、両校にも確認しながら調整して、この文言を詰めていきたいと考えております。

臼倉委員長　そこの作業もよろしくお願いします。その他、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは次に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局　（和光新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について説明）

臼倉委員長　生徒募集の関係ですね、何か御意見ございますでしょうか。重田委員、お願いします。

重田委員　いろいろ学校説明会とかあると思うのですが、中学生を対象に、何かこの学校で、祭りではないですが、何かこう集まって、在校生と交流するとか、そういうものがあっても良いのではないかと思います。どんな学校なのかというのを、やはり、今いる在校生から聞くというのが、生徒募集には良いのではないかと思います。文化祭とかそういうときにやるのが良いのか、いろいろありますけれども、その辺も考えたら良いのかと思いました。

臼倉委員長　在校生との交流等ということでしたが、事務局、いかがでしょうか。

事務局　最近、中学生にアピールをする、学校の説明であるとかオープンキャンパスであるとか、オープンスクールという言い方もあるかもしれませんが、中学生を呼んで説明をというのを、かつては割と教員が主体でやることが多かったのですが、最近は生徒たちが関わるようになってきたりしています。まさに重田委員がおっしゃるような、在校生との関わりというのが、いろいろな意味で効果的だと思っております。ですので、是非、これはこういった方針に掲げるものなのか、あるいはそれぞれの学校の工夫というところなのか分かりませんが、新校として開くからには、

地域の中学生や保護者の方にはしっかりとＰＲしていきたい、新しい学校の良さを理解してもらいたいと考えて、様々な取組を進めてまいりたいと思います。

臼倉委員長　その他、いかがでしょうか。羽田委員、お願いします。

羽田委員　新校が持っている教育コンテンツなどを発信するというのはどうでしょうか。先ほど、遠隔で海外の学校とつないでいろいろなコンテンツ、授業、大学なんかはありますよね、海外の大学で授業を我々がYouTubeとかに設けていたりするというのがあるのですが、それを逆手に取るというか、新校でいろいろな、ある意味研究開発みたいな感じで試みはされると思うのですが、そういうもので役立つコンテンツがあれば、県内の県立高校に発信しても良いでしょうし、中学生あるいは小学生でも使えるような探究活動みたいなもののコンテンツがあれば、それをパッケージにして使っていただくとか、あるいはそういったところで連携を模索していくとか。あるいは、仮想空間の中に和光新校という学校自体をつくってしまって、そこに入ってきてもらっていろいろな体験をしてもらって、説明会はオンラインで体験してもらうみたいな。メタバースみたいな感じになると思いますが、あと３、４年で我々にも使えるようになるのではないかという気がします。発信をしていくというのも少し視野に入れて、いわゆる説明会で、言葉で伝える、紙で伝えるということではない発信を模索していくというのも大切なのではないかと思います。

臼倉委員長　前向きな御意見、ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。イメージなどありますでしょうか。

事務局　大変勉強になります。実際に今回、第１期で開校する児玉新校や飯能新校のいろいろな様子を見ていきますと、例えば飯能新校は、ＳＮＳの発信がとても上手で、ＬＩＮＥであるとかInstagramなど、情報の伝達の方法として、いろいろなものを扱っているということがあります。児玉新校では、これ児玉というよりは本庄市なのですが、本庄市が、市内にある私立、公立全部集めて、七高祭という、七つの高校、特別支援学校を全部紹介するというフェアがあるのですが、このコロナ禍において、まさにバーチャルリアリティと言いますか、ＶＲみたいな形ですね、メタバース、仮想空間を作り上げて、それぞれの学校の取組やコンテンツの発信などを既に始めています。ですから、技術的にはそこまできているので、私たちもやらないわけにはいかないだろうと思っています。是非、いろいろな御知恵をいただければと思います。

臼倉委員長　この辺りは両校の先生方もいろいろなノウハウをお持ちかと思いますので、是非、作り上げるときに生かしていければと思います。その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局　（和光新校基本計画検討（案）のうちその他について説明）

臼倉委員長　その他として、地域連携を論点として挙げているということでした。何かございますでしょうか。渡辺委員、お願いします。

渡辺委員　地域連携というところで、先ほどの生徒指導のところで発言しようか迷ったのですが、これまでも和光高校と和光国際高校には、和光市で開かれるイベント、

市民まつりですとかそういったイベントなどには、積極的にボランティアとして御協力いただいているという経緯があります。引き続き、そういった意味での地域連携を深められればと考えております。また、和光市はアメリカのワシントン州ロングビュー市と姉妹都市提携を結んでおります。そういった視点でも連携できる取組がありましたら、是非、こういったところに位置付けていただけたら有り難いと考えております。

臼倉委員長　ありがとうございます。柴田委員、お願いします。

柴田委員　提案なんですけれども、昨今、海外から移住されてきた方の進学実績が上がらない問題があります。和光市にも海外から移住されてきたお子さんがいて、日本語の習得とかそういったことが困難な御家庭もたくさんいらっしゃると思います。そういった子供たちに、海外交流も含めた上で、高校生が日本語の学習支援をしていくような取組があったら、よりお互いに異文化交流ができるのではないかと思いますし、外国籍の子供たちが進学実績を上げていく取組にもつながっていきますので、是非そういった取組を、この機会に実施していただけたらと思います。

臼倉委員長　御提案、ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

事務局　埼玉県教育委員会でも、日本語を母国語としない生徒がいる場合に、それを支援するという仕組みを事業として持っていますが、なかなか全ての学校、全ての地域というところまでいかない部分があります。ですので、こうした多文化共生に関わるような施策に協力できるような高校生ボランティアみたいなことがもしできれば、本当に素晴らしいことだと思っています。是非、持ち帰らせていただき、検討したいと思います。また、それぞれの学校とも相談しながらだと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

臼倉委員長　その他、いかがでしょうか。これで説明は最後になりますので、全体を通してという視点でも結構です。何かありましたらよろしくお願いします。佐藤委員、お願いします。

佐藤（真）委員　校風ですとか、進路状況が違う学校を統合するのはなかなか難しいんだなと思ってお聞きしていたところですが、先ほどから出ている、地域の良さという部分で、事務局からも先ほど、和光高校の伝統ですとか和光高校の良さを是非引き継いだ形でというお話があったかと思います。実は本市の議会でも議員からそんな、良さを生かしてほしいという要望も出ている中で、事務局としては、和光高校の良さや伝統をどのように生かしていくのか具体的なものがあったら、あるいは和光高校の方からどんな御意見があったのかお聞きできれば有り難いと思います。

臼倉委員長　非常に大切な部分かと思います。事務局からお願いします。

事務局　私たちの中では、夏に、関係者の皆さんに御説明させていただいたりしたときにも申し上げておりますが、和光高校の最大の魅力というか良いところというのは、先生方が生徒と伴走するような形で、一人一人に寄り添ってしっかり面倒を見るというところだと思います。和光高校が、先生方がすごく熱心でそういったことをやる特別な学校ということではないと思いますが、他校に比べれば非常に熱心なんです。そういった熱量を、是非、新しい学校でも、新しい学校がたとえグローバ

ルな方向性を持って学びを進めると言っても、やはり、一人一人に寄り添わなければいけない部分があったり、例えば人生に悩んだりだとか、そういった教育相談的なアプローチというのも、どんな学校でも必要になってくることだと思いますから、是非そういったところはうまく引き継げれば良いと思っています。また、学習面でつまずいたときの、いわゆる学び直しみたいな考え方というのも、和光高校では非常に熱心に取り組まれていますが、例えば、現在の和光国際高校でも、授業の中でつまずいてしまうということはあり得ることだと思います。大学でも最近ではリメディアル教育ということでやり直しをするとかもう一度確認をするとか、そういう学び直しがあるので、そういったことも幅広に考えていきながら、その良さということで、引き継いでいきたいと考えております。

臼倉委員長　全体を通して、その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、事務局におかれましては、様々な御意見をいただきましたので、これをもとに案を作っていただいて、第２回の委員会に向けて準備を進めてもらいたいと思います。それでは、以上で協議を終了いたします。